

JCA B 級審判資格資料

2023 年 10 月 21 日、29 日

一般社団法人日本クロスミントン協会

1. 目的

- ・ルール、審判に関する理解を深める
- ・国内大会の審判及び運営を担える人材を育成し、より多くの地域での大会開催を目指す
- ・セルフジャッジを採用しているクロスミントンにおいて、ヘッドアンパイア、マッチアンパイアの役割を理解すると共に、所属クラブ内やプレーヤーに正式ルールや理念を周知する役割を果たす。

2. 歴史、理念

「クロスミントンの普及、発展に向けて」資料参照

3. マッチアンパイアの役割、ルール

「クロスミントン審判規定」、「ヘッドアンパイアのチェックリスト」参照

<補足事項>

- ・陣地は 5.5m の正方形、サービスラインは前から 3m です。
- ・ジュニアコートは 4m の正方形とお互いの陣地間は 9m、サービスラインは前から 2m です。ジュニア用の赤いスピーダーを使用します。
- ・ライン上にスピーダーが落ちた場合は「イン」の判定です。
- ・国際大会においては、ICO のヘッドアンパイア資格を有するものを置かなくてはならない。
国内大会においては A 級審判資格を持つ人がいれば、その人をヘッドアンパイアとして大会開催が出来る。
- ・マッチアンパイアが 3 分のタイムアウトを許可する場合は本部に申告してから 3 分を計測することとする。
- ・マッチアンパイアはその試合の判定に責任を持つので、線審やプレーヤーのジャッジが食い違う場合の最終裁定はマッチアンパイアが行う。

・タイムアウトの時間と回数

《セット間ブレイク》2 分

・セットとセットの間

・マッチアンパイアが 2 分計測する

・シングルス・ダブルスともに

《セット内ブレイク（作戦タイム）》1 分

・シングルスは不可

・ダブルスのみ 1 分のタイムアウトが可能

・1 ペア各セット内 1 回

・マッチアンパイアに申告

《インジュアリータイム》3分

・1試合1回のみ3分

※ダブルスの場合は、インジュアリータイム3分と作戦タイム1分を足して最大4分

※先に作戦タイム1分を取ること

※インジュアリータイムをとる必要が生じた場合は、マッチアンパイアが速やかに本部に報告してください。3分計測して、プレー続行不可能の場合には棄権とする。

・ダブルスポジション(位置)

前衛のプレーヤーと後衛のプレーヤーの前後の位置は、ラリー中に入れ替わってはいけない。

「スピーダーを打った瞬間の、2人の後足のかかとの位置」で前後を判断する。

違反した場合はマッチアンパイアから警告。(線審が気付いた場合は、マッチアンパイアに報告し、マッチアンパイアから警告)

審判が直接エラー判断出来た場合は1回目の発生で失点。ただし審判が直接エラー判断が難しい場合は、まず警告を与えて、様子を見て同じ状況が繰り返されれば失点とする。

・ダブルスポジション(順番)

サーバ側がポジション(どちらが最初にサーブを打つか)を決めてから、レシーバー側がポジションを決める。

#レシーバー優位

・サーブの順番を間違えた時は、ラリー中の場合はレット(リプレー)を申告して正しい順番でサーブを行います。ラリーが終わってポイントが確定した後は、そこまでのポイントはそのままにして、次のサーブから本来の正しい順番にして、試合を再開します。

<マッチアンパイアの試合の進め方>

・スコアカードの両パーティーの名前を確認します。

・スピーダーのトスをして、サーブ、レシーブ、コートを選択させます。

・サーブは3点毎に交代します。デュース以降はサーブは1点毎に交代します。

・2セット目、3セット目は前のセットに対しコートチェンジします。

その前のセットを失ったチームが次のセットの最初のサーブを行います。

・3セット目は6点毎にコートチェンジをします。

・試合が終わったら、スコアカードに両チームの選手に結果の確認をしてもらいサインをもらい、マッチアンパイアのサインをします。

・本部にスコアカードを提出します。

以上